再提出の学生は、レポートの表紙の前にセルフチェックシートをつけること。

評価レベル

N：実験結果未確認

D：不備が多く最後まで読めなかったレポート，実験結果に誤りがある。

書式不備（実験指導書に書かれている内容の不備【フリーハンド，鉛筆書き，章立て，ページ番号抜け，図表タイトルの位置等】）

未完成（未提出，提出遅れ扱いとする）

実験結果の未報告

C：最後まで読んだが修正箇所が多く，報告書レベルに達していない。（改善次第で再評価あり）

文章の不備（読み手に苦勞される文章表現等）

セグメントがどのように点灯したのかが明記されていない。

動作原理の説明がない

B：受理レベルのレポート

A：標準的なレポート

S：非常に優れたレポート

第1章 目的

的確な目的が記述されていない。

最低でもA4の3分の1以上の説明が必要

式が記述されている（式を書くならば文章として書く）

第2章 入出力特性の実験

2.1 入出力特性（原理）

以下の説明が適切でない

インバータIC（規格や特性の説明等）

スレシホールド電圧

電圧特性

2.2 入出力電圧特性

測定回路と測定方法が示されていない（IC番号，抵抗値の抜けも含む）

測定電圧結果が表とグラフ化されていない（有効数字が考慮されていない）

スレシホールド電圧は示されていない

2.3 考察

考察がなされていない

開放時の電圧測定結果が示されていない（入力はH，出力はLとなる）

第3章 等価回路の実験

3.1 等価回路の原理

- 等価の原理が論理回路図で示されていない
- 論理回路に対する真理値表（理論値）が示されていない。
- A と A', B と B' が同値である判定回路が作成されていない。（左辺値と右辺値の等価だけを調べている）

3.2 等価回路の作成

- 論理回路図に基づいた実体回路図が作成されていない。（論理回路において入出力の論理変数が定義されていない）

その他

- 実験結果は、必ず表にして示すこと。
- 図や表とそれを説明する文章のページが異なっているのにページ番号が明記されていない。
- グラフ用紙の中に、図、表番号やタイトルが書かれている。

全体的な指摘

- 読んでもらうという意識が低いレポート記述（読み手に苦勞させる）である。
- 無駄な記述が多い（読み直せばわかる）
- 字下げするのであれば1文字で十分
- 図、表の上下に1行のスペースを入れること
- 章題やタイトルは、意味がわかる文言で書くこと。（実験回路、実験結果では何かわからない）
- 説明の文章の後に、図や表を入れ込むこと（図、表をまとめて張り付けているのはダメ）